



自分の店を開ける起業ブースは人気

えさし このお仕事はおいクラー？ 奥州One Loveタウン 2014

(公社)江刺青年会議所(高橋真毅理事長)主催の奥州One Loveタウン2014が11月15日、江刺西体育館で開催されました。職業体験で模擬通貨「クラー(蔵)」を手に入れ、買い物などを楽しむ同イベントに、市内の小学4～6年生約300人が参加しました。

同イベントは、子どもたちが自ら起業できることが大きな特徴。起業ブースに「文房具の森」を出店した佐々木真央さん(水沢小5年)は「売り上げ好調で楽しい。完売したい」と目を輝かせていました。

みづさわ 水がもたらす恵みへの感謝 第1回胆沢平野土地改良区収穫祭

胆沢平野土地改良区収穫祭(同土地改良区主催)が11月9日、水沢区の改良区事務所前を会場に開催されました。胆沢ダムの完成により用水の本格供給が始まったことを記念して、ことし初めて開催された同収穫祭。地元農産物や沿岸被災地の物産販売のほか、市内の園児やよさこい団体などの演舞も披露されました。

この日は、歌手のアンダーパスが作曲した同土地改良区のイメージソングも初披露され、来場者はさまざまな催しに水の恵みを感じる一日となりました。



イメージソングに合わせてオリジナルダンスを披露する佐倉河小3年の児童たち

いさわ 辺りを照らした幻想的な光 イルミナイト 2014

イルミナイト2014(NPO法人胆沢文化館自主事業協会主催)のジャズライブ&イルミネーション点灯式が11月15日、胆沢文化創造センターで行われました。この日は、あいにくの小雨でしたが、本市出身のミュージシャンÉRYCÀさんによるサクソの演奏に合わせて光がともされると、来場者から歓声と拍手が湧き上がりました。

この日、幻想的な夜を演出したイルミネーション。年明けの1月31日まで点灯されています。



幻想的な光に包まれ、うっとりとする子どもたち

まえさわ 歴史を学び地域を知ろう！ 世界遺産候補地と郷土史を学ぼう

市世界遺産登録候補地ガイドの会(小野寺修会長)が主催する講演会が11月23日、前沢ふれあいセンターで行われました。大学講師や学芸員などによる研究発表のほか、弘前大学教育学部の齊藤利男教授が「白鳥湊遺跡と都市平泉ーよみがえる「大平泉」の世界ー」と題して基調講演。白鳥館が営まれる以前から周辺は川湊として栄えたということが説明されました。

この日は、市内外から約100人が聴講し、追加登録を目指す白鳥館遺跡と地域の歴史に理解を深めました。



地域の歴史について基調講演を行った齊藤教授

いさわ 歴史街道を「えっさほい」 第19回仙北街道駕籠道中大会



駕籠の乗り手の「お姫様」を運ぶ市野々の里チーム。ちょんまげ姿に「かつて」の光景がよみがえる

第19回仙北街道駕籠道中大会(愛宕地域振興会、市主催)が11月9日、胆沢区の仙北街道で行われました。

仙北街道は、千年以上前に開削された歴史街道。「甦る仙北街道事業」の一環で、地域の活性化を目的に当時の街道行列を再現しました。

昨年は雨天で会場が変更となったため、2年ぶりに紅葉の美しい仙北街道で繰り広げられた同大会。市野々番所跡公園から仮装行列がスタートし、ゴールの胆沢愛宕地区センターまでの約4km(9区間)を、7チームが小学生以下の子どもを駕籠に乗せ「えっさほい」の掛け声と共に運びました。

お姫様役として参加した胆沢愛宕小1年の安倍はなさん(7)は「少し寒いけど、楽しい」と、かわいらしい着物姿で駕籠に揺られていました。

えさし 市内各地の伝統芸能が集結 郷土芸能の祭典

第9回奥州市民芸術文化祭「郷土芸能の祭典」(市芸術文化協会など主催)が11月16日、江刺体育文化会館(ささらホール)で開催されました。同祭典が江刺区で開催されるのは初めてのことで、及川章祭典委員長(小田代神楽)は「舞台と客席とのやりとりで熱気のある場にしてほしい」とあいさつしました。

市内9つの団体が次々に伝統の舞を披露すると、会場に詰め掛けた約400人の観客からは、惜しみない拍手が送られていました。



地元江刺の小田代神楽による宮鎮舞



八百屋では新鮮な野菜や果物を販売

まえさわ 子ども店員が元気よく販売 前沢小学校5年生による「あきんど体験」

前沢商業振興会(青沼勝久会長)などが主催する「あきんど体験」が11月8日、前沢区の三日町商店街で行われました。この事業は、児童が物流などを学びながら販売を体験してもらおうと平成13年から毎年開催しているもの。

この日参加した前沢小学校の5年生119人は、鮮魚や精肉、乳製品、花など16の店舗を出店。惣菜を販売した吉田風花さん(11)は「早くに完売できてよかった」とうれしそうに話してくれました。